

## 道徳教育の指導計画と評価

### ～年間計画の見直しと指導の改善に向けた取組～

函館市立亀田中学校 教諭 川合 園子

#### 1 はじめに

平成31年度から、中学校の「道徳の時間」が「特別の教科 道徳（道徳科）」として教科化された。これは教育の中でも大きな変革であったことは言うまでもない。現場では軌道に乗るまで各学校で様々な工夫がなされ、当時は、目前に迫った教科化に研修を積んだ先生が多いと思う。実際に私自身も函館市に転勤になってから道徳について詳しく研修する機会をいただき、道徳の授業について研鑽を少しずつ積んできた。まだまだ未熟ではあるが、様々な先生方からの助言を頂きながら授業に取り組んでいる。

さて、令和3年度に実施された道徳教育実施状況調査によると、『特別の教科』化を受けた変化」として、

- 「生徒同士による話合いや議論が活発になった」
- 「道徳教育に対する教師の意識が高まった」などの項目で、肯定的な回答をした学校の割合が8割以上となり、教科化による授業改善や教師の意識の変化が見られている。

一方で、「道徳教育の充実のために学校が行った取組」については、

- 「各教科等や体験活動において、道徳科の内容項目との関連を意識して指導を行った。」と回答した学校の割合が5割ほどであり、各教科等との関連を意識した指導が十分ではないことが明らかとなった。本校においても、道徳科の授業改善は進んでいるものの、その内容項目と各教科等の関連を意識した指導が十分ではないという、同様の課題が見られることから、道徳教育推進教師として、

私を中心となり、指導計画の見直し・整備と検証改善サイクルの確立が必要と考え、研究を進めている。

#### 2 道徳教育推進教師の位置付けと役割

本校の道徳教育推進教師は、研究部に所属しているため、校内研究と連携した取組が推進しやすい。主な役割としては次のものが挙げられる。

- ・ 指導計画の作成・整備
- ・ 道徳科の教材の整備・管理
- ・ 道徳教育の関する校内研修の企画・運営
- ・ 地域公開を含む公開授業の計画
- ・ ローテーション道徳の企画・運営
- ・ 道徳教育に関する保護者・地域への情報発信
- ・ 全教職員への道徳教育に関する情報提供
- ・ 若手教員への指導・助言

これらの道徳教育推進教師の役割の中から、指導計画やその評価について、本校の特徴的な取組を紹介する。

#### (1) 指導計画の作成・整備

月	内容 題材	特別活動			国語
		学級活動	生徒会活動	学校行事	
4月	1 サッカーの漫画を描きたい A-(4)希望と勇気、克己と強い意志 自己決定の場	自信に満ちた中学生になる A-(15)	対面式 A-(15)	始業式 A-(4)	ふしぎ B-(9)
	2 挫折から希望へ D-(22)よりよく生きる喜び	みんなで活動する学級の組織 C-(15) 自己決定の場 中学生の字音のしかた A-(2)	代議委員会 認証式 A-(1)	入学式 C-(15) 健康診断 A-(2) 実力テスト A-(4)	音を追いかけて B-(8)
5月	3 人のフリみて B-(6)思いやり、感謝	自分のよさを知ろう A-(3)	体育大会 A-(1)	体育大会 C-(15)	体験したことを A-(1) 美顔という魔法 B-(9)
	4 「愛情許す 対話」 A-(7)情緒	これからのわたし C-(4)	代議専門委員会 生徒総会 A-(1) C-(15)		
	5 さかなのなみだ C-(11)公正、公平、社会正義	危険の予測と回避 A-(2)	社行式 B-(6) B-(8)	期末テスト A-(4) 避難訓練 A-(2)	フリップを用いて B-(6) ペンチ C-(11)
	6 トマトとメロン A-(3)向上心、個性の伸長		代議専門委員会 A-(1)		

(図1) 道徳教育の全体計画別業

学習指導要領に「各学校においては、道徳教育の全体計画に基づき、各教科、総合的な学習の時間および特別活動との関連を考慮しながら、道徳科の年間指導計画を作成するものとする」また、「校長が道徳教育の方針を明確にし、全教師に周知する」と示されているように、校長の道徳教育に関する方針のもと、各教科等との関連を明確にする必要がある。

本校の全体計画別葉はこれまで、各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期、道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等を一覧に表しただけであったため、改めて道徳の全体計画別葉を見直し、(図1)のように整理した。

見直しに当たっては、まず、各月の題材が生徒の発達の段階に合う適切な指導時期かどうかを検討し、配列を見直した。その後、学校行事や各教科等の計画との関連を再確認した。図1では、題材から矢印が示されているが、道徳科の題材と各教科等のつながりを意識するために、今年度記載し、配布したものである。

また、年度当初に校長が示した道徳教育の方針により、特に「対話」に重点を置く時間、「自己決定の場」を設定する時間を明確にし、全体計画別葉に位置付けた。

## (2) 年間指導計画について

本校の年間指導計画は、これまで、指導の時期、主題名、ねらい及び教材が一覧となったも

のを作成し使用していたが、実際の指導において、効果的に活用されていない現状があった。学習指導要領には、「学習指導過程等を含むものなど、各時間の指導の概要が分かるようなものを加えることが求められる」と示されているように、全体計画や全体計画別葉で示された各教科等との関連、主な発問、指導方法や指導過程などを明記することで、効果的に活用できると考え、今年度、(図2)のように見直し、整備を進めているところである。

項目には、主発問の際、グループでの話し合いを行うのか、ICTを活用し意見交流を行うのかなどの学習形態についても効果的な授業展開例として示し、指導後は、「次年度に向けての引継事項」の欄に、指導者が効果的であった指導や発問、改善が必要だと感じた点などについて記載できるようにした。

## (3) ローテーション道徳について

学習指導要領には、「特に効果的と考えられる場合は、(中略) 校長や教頭などの参加による指導、他の教職員とのティーム・ティーチングなどの協力的な指導、校長をはじめとする管理職や他の教員が自分の得意分野を生かした指導などにより、学校の教職員が協力して指導に当たることができるような年間指導計画を工夫するなどを、学校としての方針の下に道徳教育推進教師が中心となって進めることが大切である」と示されているように、本校においては、道徳

月	教材名	内容項目	ねらい	発問(◎は中心発問)	次年度に向けての引継事項	各教科等
4月8日 (水)	1 自分の弱さと戦え	D-(22) よりよく生きる喜び	自らの弱さを自覚し、それを克服しようとする強さをもって、人間として気高く生きようとする態度を育む。	<p>○「自分の弱さと戦え」とはどういうことかと思うか。</p> <p>○国枝さんが当初、勝てなかったのはなぜだろう。</p> <p>○クインさんは、なぜ「俺は最強だ!」と叫びせたのだろう。</p> <p>◎国枝さんが、精神面で殻を破るために必要だったことはなんだろう。</p> <p>・自分の未熟さや傲慢さに気づくこと</p> <p>・自分が思い上がっていたことに気づくこと</p> <p>・対戦相手が自分自身であることに気づくこと</p> <p>・そうした自分の弱さを認め、強さに変えること</p> <p>○自分の弱さを克服するために、どんなことが大切か考えてみよう。</p>		保健体育、総合的な学習の時間
4月18日 (水)	2 おばちゃんのおまじない	C-(13) 勤労	働く喜びを得て自分の仕事に誇りをもつことが充実した生き方につながることを理解して、主体的に将来の生き方を考えようとする実践意欲を育てる。	<p>○「働く」と聞いて、どんなことをイメージするか。</p> <p>○今まで雑に仕事をしてきたことに愕然としたとき、「私」はどんなことを考えただろう。</p> <p>○おばちゃんがなくなり、病院中に響き渡るほど大声で泣いたとき、「私」はどんな思いだっただろう。</p> <p>◎「私」は、おばちゃんがかけてくれたおまじないはどう向き合ってきたのだろう。</p> <p>・相手を思っで一生涯懸命に仕事をするのを忘れない。</p> <p>・自分の仕事で人を喜ばせることほど幸せなことはない。</p> <p>・ゴワゴワの手は一生涯懸命に仕事を頑張った証拠。</p> <p>・仕事を頑張ると、自分を好きになれるし、自分の仕事に自信や誇りをもって生きられる。</p> <p>○将来就くであろう職業に、どんなことを求めているのかを考えてみよう。</p>		総合的な学習の時間、特別活動

(図2) 道徳教育の年間指導計画

教育推進教師が中心となって、副担任を含む全教員でローテーション道徳を年に2回行っている。具体的な実施方法については、(図3)のとおりである。

	1組	2組	3組	4組	5組
6月 第1週	A教諭 教材①	B教諭 教材②	C教諭 教材③	D教諭 教材④	E教諭 教材⑤
6月 第2週	E教諭 教材⑤	A教諭 教材①	B教諭 教材②	C教諭 教材③	D教諭 教材④
6月 第3週	D教諭 教材④	E教諭 教材⑤	A教諭 教材①	B教諭 教材②	C教諭 教材③
6月 第4週	C教諭 教材③	D教諭 教材④	E教諭 教材⑤	A教諭 教材①	B教諭 教材②
6月 第5週	B教諭 教材②	C教諭 教材③	D教諭 教材④	E教諭 教材⑤	A教諭 教材①

(図3) ローテーション道徳

「ローテーション道徳」におけるメリットは次の通りである。

- ・同一教材を5つの学級で指導するため、1つの授業が終わった後に授業の改善策を作成し、次の授業につなげることができる。
- ・授業者が客観的な視点ですべての学級の特徴を把握することができ、その特徴を学級担任に還元することができる。
- ・学級担任以外が授業を行う際、学級担任の授業準備等の負担軽減につながる。
- ・学級担任がT2として授業に入り、生徒のつぶやきや細かな表情を観察することができ、評価につなげることができる。

ローテーション道徳は1人の教諭が5回同じ授業に取り組めるので、その度に改善ができるというメリットがある。このローテーション道徳は本校では年間を通して2度取り組んでいる。この取組を継続し、評価することでさらなる授業の改善につなげることができる。

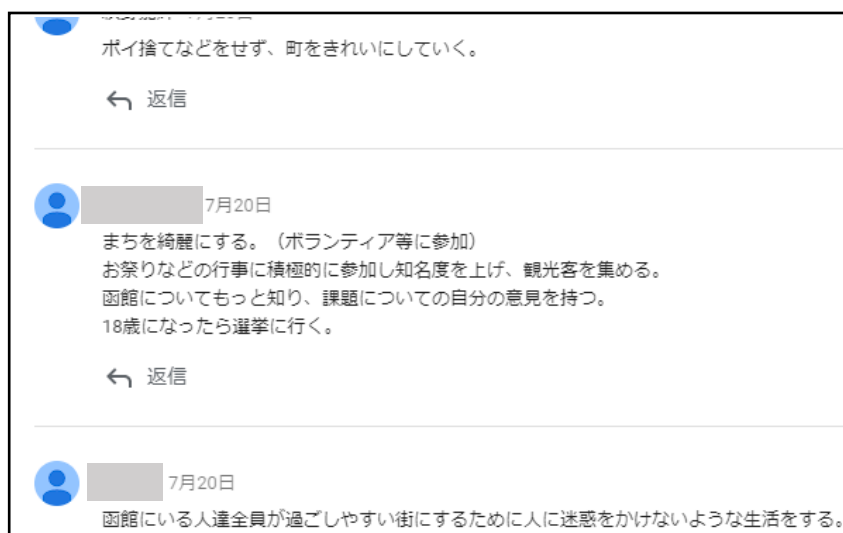
#### (4) 一人一台端末の活用

昨年度から生徒に一人一台端末(Chromebook)が導入され、各教科において活用されている。

本校においては、道徳科の授業においても積極的に活用できるよう校内研修等において道徳科におけるICTの活用事例を紹介したり、年間指導計画に位置付けたりして活用している。生徒が道徳科において端末を使用することのメリットは次の通りである。

- ・人前で発言することが苦手な生徒が、自分の考えを端末に打ち込むことで、表現することができる。
- ・他の生徒の考えや意見を画面上でいつでも見ることができるため、多様な考えに触れることができる。
- ・他の生徒の考えをもとに、すぐに自分の考えを深めることができる。

(図4)は実際の交流場面での端末の画面である。この授業では、Google Classroomのストリームを使用している。ストリームは、一人ひとりの書き込みをリアルタイムで見ることがで



(図4) 端末を用いた意見交流

きる機能であるが、考えや意見をグルーピングすることができないため、Jamboradのように、1つの画面に付箋を貼るように、全員が自由に書き込む機能を使用することも効果的である。端末を活用することで、生徒の評価にいかすことはもちろん、授業者の授業評価の資料として活用することも可能である。

#### (5) 公開授業の実施

学習指導要領には「年間指導計画に基づく授業が一層効果的に行われるためには、授業実施の反省に基づき(中略)日頃から実施上の課題

を評価欄に記入したり、検討したりするための資料を収集することにも心掛けることが大切である」と示されている。

本校においては、日常の道徳科の授業の改善のため、校内研修を効果的に活用することとした。これまでの公開授業は、校内の代表者1名が授業を公開し、全員で参観して研究協議を行う形式であったが、今年度は、全16学級で道徳科の授業を、時間をずらして公開し、空いている教職員が参観する形とした。すべての学級を参観することができなくても、複数の授業を互いに参観することができる。

また、扱う題材は、年間指導計画に基づくものとし、日常の授業を公開するよう確認した。残念ながら、コロナ禍であるため、保護者の参観は、今年度行うことができなかったが、複数の指導主事の来校を要請するなど、外部からの助言による授業改善を進めることができた。

## 6 成果と課題

今年度、道徳教育推進教師として、校内研究と連携した取組を進めることができた。特に、指導計画の見直しについては、これまでの反省を生かし、各教科等との関連を明確にしたり、指導の重点を明らかにしたりすることができた。

また、ローテーション道徳や公開授業により、互いの授業を参観できる機会を増やしたことで、道徳科の指導に苦手意識をもっていた若手教員などが自信をもって自分の指導を行うことができるようになったことも成果の1つである。

今後は、今年度の成果のもと、指導計画を継続して活用できるよう、さらに改善を加えながら、全教職員の授業改善に向けての取組を充実させていきたいと考える。

また、一人一台端末をはじめとするICT機器の活用については、効果的である反面、1時間の中での生徒の考えの変容や、深まりが見取りにくいなどの課題も見られることから、指導計画と同様に、その活用方法について先行事例を参考に今後も研修を継続していきたい。

## 7 おわりに

今、様々な場面で「働き方改革」という言葉が聞こえてくる。日々の授業の中で学級経営や

授業準備など、生徒に還元させたいことは山のようにある。そのような状況の中で道徳科の指導に対する負担は大きい。だが、これまで述べた通り、教育活動全般において道徳科が重要であることは確かである。だからこそ、全教員で年間指導計画に沿った授業とその評価を続けたい。その評価が今後の授業づくりに大きく関わっていく。また、このような研修が若手を育てるなど、道徳科に対する不安感を拭うことができればと思う。

また、道徳の授業の特質として以下の役割も共通認識で押さえておきたい。

- ・学校の教育活動の中で、考えたり感じたりする機会が得られにくい道徳的価値について補充するという役割（補充）
- ・学校の教育活動で経験した道徳的価値について、じっくり向き合わせ、一層考え深めさせるという役割（深化）
- ・教育活動の中での多様な経験について、それぞれが持つ道徳的価値相互の関連やつながりから新たな考え方感じ方を生み出すという役割（統合）

このように、1時間の道徳の授業は、学校の道徳教育の方針を明確にした「全体計画」と計画的指導を可能にする「年間指導計画」を連動しなければならない。このようなことを考えながら授業づくりに取り組まなければならないのではないだろうか。

だからこそ、学校全体での道徳教育を充実させ、そのために様々な工夫をしていきたい。